

サマーセミナー2010報告

中村 明生¹⁾, 渡邊 修²⁾, 村松 正吾³⁾

1) 東京電機大学 2) 拓殖大学 3) 新潟大学

2010年度のサマーセミナーは、8月30日～31日の2日間、新潟県新潟市の越後岩室温泉「ほてる大橋 館の湯」において開催された。学生の発表は若葉研究会27件、チュートリアルセッションでは講師の先生2名に特別講演をお願いした。参加者数は企業5名、大学教員21名、学生44名の合計70名であった。以下、セミナーの概要について述べる。

1. はじめに

第19回目となる今回のサマーセミナーは、新潟県新潟市において、8月30日から31日の2日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催で開催されたサマーセミナーとしては、2004年以来、今回で7回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を与えること、両学会の研究室や研究者同士の交流を図ること、である。

2. 開催準備と実施形態

2009年10月から企画を開始し、両学会で検討を重ねた。共催となってからは両組織が交代で主担当となっており、今回はメディア工学研究会が中心となった。以下に示す企画委員会を設置し、村松正吾企画委員長のもと、中村明生幹事（画像応用技術専門委員会）、渡邊修幹事（メディア工学研究会）が中心となって準備を行った。

サマーセミナー2010 企画委員会（敬称略）

画像応用技術専門委員会側

- ・ 中村 明生（東京電機大学、幹事）
- ・ 棚澤 信（旭硝子）
- ・ 渋谷 久恵（日立製作所）
- ・ 中野 宏毅（日本IBM）
- ・ 藤原 孝幸（中京大学）

メディア工学研究会側

- ・ 村松 正吾（新潟大学、企画委員長）
- ・ 渡邊 修（拓殖大学、幹事）
- ・ 青木 義満（慶應義塾大学）
- ・ 伊藤 康一（東北大学）
- ・ 小川 貴弘（北海道大学）
- ・ Mehrdad Panahpour Tehrani（名古屋大）

若葉研究会での優秀な発表者に贈られる優秀発表賞については、11名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った。例年と同様、審査委員会のメンバー全員がすべての発表を聴講

することで公正かつ平等な審査を行った。

優秀発表賞審査委員会（敬称略）

代表会委員

- ・ 村松 正吾（新潟大学、企画委員長）
- ・ 奥水 大和（中京大学、画像応用技術専門委員会委員長）
- ・ 梅田 和昇（中央大学、画像応用技術専門委員会副委員長）
- ・ 吉田 俊之（福井大学、メディア工学研究会委員長）
- ・ 村上 和人（愛知県立大学、メディア工学研究会副委員長）
- ・ 中村 明生（東京電機大学、サマーセミナー幹事(書記)）

審査委員（50音順）

- ・ 奥平 雅士（東京都市大学）
- ・ 棚澤 信（旭硝子）
- ・ 渋谷 久恵（日立製作所）
- ・ 秦 清治（香川大学）
- ・ 山本 和彦（岐阜大学フェロー）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数と開催状況

参加者数は、企業5名、大学教員21名、学生44名の合計70名（男性61名、女性9名）であり、昨年度と同規模であった。御協力頂いた関係各位に感謝申し上げたい。

会場は和風旅館の中の多目的ホール「朱鷺の間」であり、リラックスした雰囲気で行進していった。

3.2 チュートリアルセッション

今年度は「感覚と感性がもたらすビジョン技術の革新」というテーマのもと、2名の講師の方に特別講演をお願いした。

初日には、浜本隆之氏（東京理科大学）に「様々な機能を集積したイメージセンサとその画像処理システムでの活用」という題目で、CMOS イメージセンサの基礎説明の後、高機能イメージセンサとしての特徴及び最近の研究動向についてご講演いただいた。

2日目には、中川匡弘氏（長岡技術科学大学）に「カオス・フラクタル感性情報融合工学」と題して、感性フラクタル次元解析手法を用いて、視覚刺激に対する華やかさの感性解析を行う手法についてご講演いただいた。

いずれのご講演も、「感覚と感性がもたらすビジョン技術の革新」への指針を示して頂けるものであった。お忙しい中ご講演いただいたお二人にはこの場を借りて心より感謝申し上げる。なお、座長はそれぞれ、村松正吾氏（新潟大学）、青木義満氏（慶應義塾大学）をお願いした。

3.3 若葉研究会

学生の発表は若葉研究会 27 件であり、昨年度よりは 4 件少ないものの、正味 1 日という発表時間を考えれば適切な発表件数であった。座長は、中村明生氏（東京電機大学）、堀田政二氏（東京農工大学）、寺林賢司氏（中央大学）、小川貴弘氏（北海道大学）、伊藤康一氏（東北大学）をお願いした。

異なる 2 つの学会の共催である本セミナーの特徴として、普段とは違った視点からの質問・コメントが多く、発表者・聴衆ともに良い刺激を受け、参加者全員が充実感を持って終了した。ただ、贅沢を言えば議論の時間がもっと欲しかった。限られた時間の中、円滑なセッション進行をして頂いた座長各位には感謝したい。

最終日には優秀発表賞の発表が行われ、以下の 2 名の受賞者が表彰された（図 1）。

優秀発表賞受賞者（発表順、敬称略）

伊藤 光保（東京理科大学）

三浦 衛（東北大学）



図 1 優秀発表賞受賞者（左：伊藤氏、右：三浦氏）と村松企画委員長（各写真の右）

3.4 懇親会

広々とした温泉に入った後、大宴会場「鳳凰の間」にて夕食をとった。味も量も抜群であり、ご飯のお代わりをすると苦しいほどであった。

夕食後、ナイトクラブ「銀河」にて懇親会を行った。座長・発表者を除く参加者全員が簡単な自己紹介を行い、親密な雰囲気の中、世代を超えたタテの交流、同世代のヨコの交流が行われた。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも、楽しい雰囲気の中に無事終了した（図 2）。サマーセミナー 2010 の準備にあたりお世話になった皆様には、紙面を拝借して感謝の意を表したい。特に、ご支援をいただいた(財)新潟観光コンベンション協会、会場設置にあたった新潟大学の学生アルバイト各位、料金設定や会場準備その他あらゆる面で手厚い待遇をいただいた「ほてる大橋 館の湯」の皆様には御礼申し上げる。

今回のサマーセミナーは、画像応用技術専門委員会が中心となって開催する。中村明生企画委員長（東京電機大学）を中心に企画を行い、2011 年夏に開催する予定である。



図 2 サマーセミナー2010 参加者集合写真（2010 年 8 月 31 日 「ほてる大橋 館の湯」玄関にて）